

## 3年間を振り返って

気がつくともう高校生活も終わりを迎え、違う道を歩んできた  
38人が佐倉東高校の服飾デザイン科で出会い、それぞれがまた違う道へ  
新たな一步を踏みだそうとしています。

ファッションショーに魅せられ心躍らせて服飾の道を選んだものの、  
想像していた以上の課題の量や1ミリでもずれたらやり直しになるシビアな世界を  
入学して一ヶ月で体験し、トートバッグ製作の時点で泣いていたのも  
今思えば笑い話です。そんな私でも3年間を佐倉東高校の服飾デザイン科で  
過ごし、一生物の思い出になるファッションショーを成功させられました。  
勿論、自分ひとりの力でできたわけではありませんがそのメンバーの一員として、  
企画係という立場に関われたことは私の誇りです。

私の好きなバンドマンが、あるライブで言った

「通過点でも終着点でもない、ひとつの到達点だ」という言葉。

まさにファッションショーが私にとっての大切な到達点になりました。  
普通科や他校の高校生が遊んでいるときも、課題に苦しめられながら毎日顔を合わす  
友達とくだらない話をしてたくさん笑ったり、夜中に通話しながら課題を進めたり、  
休み時間の度にゲームをしたり、軽く反抗するクラスメイトとばばの会話を聞いて  
ちょっとだけ呆れることも、すべてがA組にいて本当によかった、  
服飾デザイン科に入ってよかったと強く思える思い出です。  
卒業してしまえば会うことにも理由が必要になってしまうだろうし、  
無条件で38人全員が顔を合わせることもできなくなります。  
とても寂しくてできることならば数年後もA組のみんなとずっと一緒にいたいと  
思ってしまうのですがそれは叶いません。

ですが、きっと数年後に風の噂でみんなの名前を聞ける日が来ると思っています。  
私も自分の名前を風に乗せてどこかで頑張る誰かの耳に届けられるように卒業後、  
もし辛くなってしまったときや苦しくなったとき、落ち込んだときに  
この3年間の思い出、人生の糧にして頑張っていきたいと思えます。  
世間一般でいう青春とは少し違いましたが、自分にはない感性や技術、嫉妬してしま  
うくらいの素敵なセンスを持ったキラキラ輝く個性的なクラスメイトとともに  
過ごしてきた高校生活はまちがいなく特別な青春でした。